



営農者への支援を

有山 茂 議員

問 認定農業者制度など、担い手支援を。

答 現在52人が認定されている。引き続き本制度を含めた支援を進める。

問 農業生産改善事業補助金への反響は。

答 昨年度は7人の認定農業者に交付し、今年度もすでに4人に交付した。申請の相談も多数ある状況である。

問 市街化調整区域内の公共下水道の整備は

答 地域の方へ受益と負担の関係を説明し、合意形成を得た後に認可手続に入る事となる。丁寧な説明を行いながら、整備区域を慎重に検討していきたい。

問 市街化調整区域内の公共下水道事業認可へ向けたプロセスは。

答 大井浄水場前の道路の交通量が増すと考えられるが、整備の考えは。沿線に住宅が密集しているため、拡幅は難しい。



浄水場へ向かう道路

問 大井総合支所の同時刻発着の乗り継ぎには無理がある。次回ダイヤ改正まで緊急対応ができないか。1時間待つのはつらいという声がある。

答 原則、次の便に乗ってもらうが、他自治体などの事例を研究し、柔軟な対応の可能性について考えていく。

問 低料金制度など高齢者の外出支援を行っている自治体では、健康増進や地域活性化につながっている。なぜ、本市は実施できないのか。

答 研究はしているが、受益者負担の考えを重要視しているため、補助は検討していない。

問 運営を維持していくために事業所への補助を。

答 研究はしているが、受益者負担の考えを重要視しているため、補助は検討していない。

問 認知症サロンに補助を

答 研究はしているが、受益者負担の考えを重要視しているため、補助は検討していない。



改修が待たれる劣化した側溝



利用しやすい市内循環ワゴンに

伊藤初美 議員

問 子どもの異変に早期に気がつき、問題を抱えた親を早い段階から支援することで、虐待の芽を摘むことにつながる。孤立化をさせない取り組みや要保護児童等の把握や情報共有は。

答 ホームページや市報等で周知・啓発を図る。治療費の助成は検査費の助成、申請状況を踏まえ調査研究する。

問 児童ケースワーカーや保健師が家庭訪問等で、養育の安定に必要な知識や情報を提供し、個別ケースごとの支援を継続的に取り組んでいる。また、庁内で共通の業務管理システムを導入し、虐待支援情報を共有し虐待リスクの早期発見・対応を推進している。

問 他市の若者議会や「こうちこどもファンド」などを参考に、積極的に若者世代が市政に参画できる取り組みを。

問 不適正な検査や治療で80%以上の人が出産にたどり着ける。悩んでいる人に正確な情報の提供や不育症治療費の助成を。

問 次代を担う若者が自ら事業を企画・実行できる方策を、地域振興基金の活用も含め検討する。



平成28年度活動発表会



大規模水害の避難対策

足立志津子 議員

問 ハザードマップのように荒川・新河岸川が氾濫した場合の避難指示や障がい者への対応は。

答 自治会長との密な連絡や広報車で住民に知らせる。福祉避難所を早めに開設し、地域の自主防災組織とも連携を図る。

問 新河岸川沿いの市道第667号線は、昨年の台風第21号で冠水した。避難路にできるようなかさ上げを。

答 洪水被害の軽減が予想される。また、通行止め看板等で安全を図る。



丸山踏切内の歩道部分の確保

問 発生するメタンガスや廃棄物搬入時の交通量など地域への影響と対策

答 現状は歩道幅員が十分とは言えず、難しい状況である。しかし、上福岡駅駅前広場は暫定横断歩道橋の設置を計画しているため、形状についても変更する。併せてべ



新たな時代のシティブロモーションへの期待

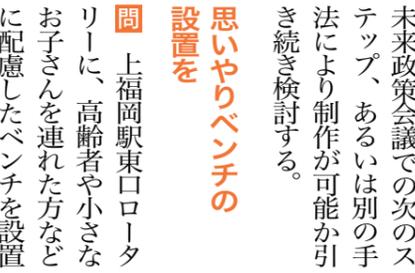
川畑京子 議員

問 YouTubeの動画配信を使い、広く市の魅力を発信してはどうか。

答 注目を浴びるような動画が制作できれば、効果的な市のPR手段として考えられることから、未来政策会議での次のステップ、あるいは別の手法により制作が可能か引き続き検討する。

問 上福岡駅東口ロータリーに、高齢者や小さなお子さんを連れた方などに配慮したベンチを設置してはどうか。

答 現状は歩道幅員が十分とは言えず、難しい状況である。しかし、上福岡駅駅前広場は暫定横断歩道橋の設置を計画しているため、形状についても変更する。併せてべ



上福岡駅東口ふじみん号バス停前



東京オリンピック・パラリンピックに向けて

新井光男 議員

問 障がい者が気軽にできるレクリエーションの普及啓発を。

問 発行による情報発信の政策効果は。

問 ボランティア育成の考えは。

問 定期的な看板の更新を。



フロアカーリングを楽しむ

問 障がい者スポーツ団体の設置と育成は。

問 定期的な看板の更新を。